

J - クレジット制度管理者 御中

## 実績確認概要書

平成30年1月30日

審査機関名 ロイドレジスタークオリティアシュアランスリミテッド

### 1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	乾燥プロセス全体の高効率化によるCO <sub>2</sub> 削減事業
承認番号	KC1041
排出削減事業者名	大川柳川衛生組合
排出削減共同実施事業者名	ESカーボンクレジット合同会社 (その他関連事業者名：無し)
事業実施場所	大川柳川衛生組合 (住所：福岡県大川市大字紅粉屋1201-2)
事業の概要	大川柳川衛生組合において、し尿からの脱水汚泥を乾燥し有機肥料を製造するために、A 重油等を使用していたが、入手可能な“のこくず”を燃料として使用し、A 重油の削減を図り、更に燃焼排ガスの循環を行い、設備の高効率化を行い、CO <sub>2</sub> 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2009年度： 658 tCO <sub>2</sub> 2010年度： 790 tCO <sub>2</sub> 2011年度： 790 tCO <sub>2</sub> 2012年度： 790 tCO <sub>2</sub> 2013年度： 789 tCO <sub>2</sub> 2014年度： 789 tCO <sub>2</sub> 2015年度： 789 tCO <sub>2</sub> 2016年度： 789 tCO <sub>2</sub> 2017年度： 131 tCO <sub>2</sub> (事業実施期間合計 6,315 tCO <sub>2</sub> )
クレジット認証期間	開始日 2009年 6月 1日 終了日 2017年 5月31日
排出削減方法論	方法論番号 035： 乾燥設備の更新

## 2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日～2017年5月31日（第4回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	1,457 tCO <sub>2</sub> (2013年4月1日～2017年5月31日)
-------	--

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。  2) 対象期間中の設備稼働の確認 本実績報告期間において導入設備が稼働していることを現地訪問による設備の確認及び、本実績報告期間における証拠書類（記録表）の閲覧により確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 各種計器の集計データ（記録表）及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。  2) 活動量の正確性 各種計器の集計データ及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、エネルギー使用量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認 各種計器の集計データ及び、事業者へのヒアリング並びに J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.2.9 により、排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 排出削減量の算定結果を各種計器の集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に大きな誤りはないことを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2013年4月1日から 2017年5月31日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了日は 2017年5月31日となっているため、当該算定結果は適切であることを確認した。□</p>

## 5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

事業計画書に記載されている、事業実施後ののこくず、乾燥汚泥使用量のモニタリングが抜けていたため、ベースライン排出量の算定で反映されていなかったと思われる。今回から、ベースライン排出量の算定に反映した。

## 6. 特記事項

設備のエネルギー使用効率の予定値よりの上昇（約20%改善。これによりベースライン活動量が減少する）、ならびに活動量（し尿搬入量に基づく乾燥汚泥の生産重量）の減少（全体平均で計画の約71.5%）を主な要因とし、計画値に対する削減量が大きく減少している。

本実績確認期間における省エネルギー量として、原油換算 580.2 kL、熱量換算 22,488.1GJであることを確認した。

排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量について、熱量換算 29,775.8 GJ であることを確認した。

以上

